

平成23年7月1日発行

発行/(社) 江田島市社会福祉協議会
編集/ 地域福祉課

(電話) 0823-40-2210

(Fax) 0823-40-2502

第 45 号



世羅町社協

江田島市社協

「てご〜」の輪 「しおかぜ」通信



グループワークで意見交換



地域を超えた交流を目指して

えがおえたじま応援センターでは、5月23日(月)に世羅町へお邪魔して、世羅町社会福祉協議会の「てご〜」と「しおかぜ」の交流会を行いました。

「てご〜」とは、世羅町の方言で「お手伝い」という意味です。世羅町社協では、あなたにできる「てご〜」の輪をつなげていくことを目指して、「てご〜」と名前をつけて平成17年から活動をスタートされたそうです。ちょっとした困りごとを自分ができるお手伝いで支援する……。地域が違ってボランティアの想いは同じだと感じました。

交流会ではお互いの活動を報告しあい、グループワークを通して意見交換や協力員同士の親睦を深めました。同じボランティア活動の協力員同士、共有する想いも多く、自然と仲良くなりました。お昼からは、一緒にお弁当を食べて、世羅で有名な藤の花を見て回りました♪

楽しく、新しいつながりも出来てとても充実した交流会でした！



ひろしまボラネット応援隊

に参加してきました！

「ひろしまボラネット応援隊」とは？

被災者支援を行う県域のネットワークである「広島県被災者生活サポートボラネット推進会議」の構成員（県・市町社協職員とボランティア活動推進組織、県・市町行政や関係団体等）が「ひろしまボラネット応援隊」として被災地に入り、被災者宅や避難所での必要な支援活動を行います。

この活動をととして、被災地の現状や災害ボランティアセンターの運営状況を知り、参加者のさまざまな視点から、今後の被災者支援ニーズを想定し、中長期的に求められる被災者支援活動のための基盤づくりを目指さずものです。

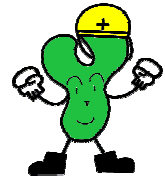
活動場所：宮城県多賀城市

活動期間：5月16日（月）～5月20日（金）

参加者：22名

（県社協3名、市町社協3名、県庁職員1名、ボランティア15名）

※江田島市からは、社協職員1名、ボランティア2名 が参加しました。



広島駅北口に朝早くから集合し



バスに乗り16時間・・・



津波の被害を受けた宮城県多賀城市に到着

被災地のために皆さん頑張ってくれました！



側溝に詰まった泥のかき出し



津波で汚れた外壁の掃除



床下の土砂をかき出し

～「ひろしまボラネット応援隊」に参加して～

今回、被災地でのボランティアを通じて、これから東北地方が以前の姿を取り戻すには、たくさんの支援が必要だろうと感じました。一人ひとりの力は、微力かも知れませんが、それらが集まらなければ、大きな力にはなりません。私という小さな存在でも、その一部を担うことが出来るということを実感しました。

実際に自分の目で見る被災地は想像を絶するもので、こんなに広い範囲が、津波の被害を受けており、しかも、こんなに深刻な状況にあるのかと驚き、完全な復興には、まだまだ時間がかかるのだろうと感じました。

しかし、震災の被害以上に驚いたことがあります。それは、現地の人たちがとても明るく元気だった事です。私たちが、重労働をしていると、「大丈夫ですか?」「休みながらでいいですよ。」とやさしい声をかけていただき、こんな被害の状況の中でも、みなさん明るく話しかけてくださりました。

自分自信、時間とともに被災地への関心が薄れていたことに今回改めて気付かされました。ボランティアを終えた今は、少しでも多くの人に、東北の現状を知ってもらえればと思っています。そして、ボランティアに限らず、みんなが自分に出来ることを確実にやっていくことで、被災地は復興していくのだろうと思います。

江田島市社協 地域福祉課 主事 酒井 良裕



今回「ボランティア」として参加されたお2人からコメントをいただきました

尾崎 光明 さん（江田島町在住）

ひろしまボラネット応援隊に参加して、宮城県多賀城市でボランティア活動をさせていただきました。初日は民家と周辺道路の側溝の泥のかき出し、2日目は津波で汚れた外壁の清掃、3日目はアパートの床下と周辺の土砂と瓦礫の撤去、と復興から2カ月が経過した今でも、ボランティアを必要としている方々が多く、この度の被害の大きさを痛感いたしました。

ボラネット応援隊の参加者の皆さんは、やる気満々で誰一人としてぶらぶらしている人がいない、非常に素晴らしい人たちばかりでした。特に若い人たちの頑張る姿には感心し、心強くもありました。

これから暑い季節になってきますので、被災地でのボランティア活動を計画されている方は、しっかり暑さ対策等を万全にして頑張ってください。

岡平 孝吉 さん（江田島町在住）

これまで、自分に何かできることはないだろうか?と悩んでいたのが、今回のひろしまボラネット応援隊に参加できてとても良かったです。

実際に被災地の風景を目の当たりにし、被災された方から体験談を聞くと、あまりのショックに涙がでる思いでした。これはテレビ等のメディアを通しては絶対に解らないことでした。

みなさんも震災に対して「何かできないか?」と想いをめぐらしていることと思います。今回の私たちのように、実際に現地に行って泥かきなどのボランティア活動をしなくとも、義援金や物資を送るなど、被災地のためにできることはあります。1日でも早い被災地復興のために、一人ひとりの想いを実行に移して大きな支援の力に変えていきましょう。



今回の「ひろしまボラネット応援隊」に参加されたメンバーです

この「ひろしまボラネット応援隊」は、当面 12月ごろまでは継続して、約月1回のペースで被災地へボランティアを派遣する予定です。

お問い合わせ、活動を希望される方は

「江田島市社会福祉協議会」

地域福祉課 40-2210」

までご連絡ください。

参加希望者多数の場合は、社協事務局にて選考させていただきますのでご了承ください。

※基本的に宿泊費、食費等は自己負担となります。

ふれあい・いきいきサロン情報

～地域の憩いの場 楽しい仲間の集まり～



「ふれあいサロン」は、いつでもどこでもおたがいさまの気持ちで、地域みんなが心をつないでいけるところ。

地域を大切に思う心、人を大切に思う心がみんなを元気にしていきます。

そこからまた「おたがいさまの心」が生まれ、ママえあいの輪が広がっていきます。

『平成23年度・サロン推進会議』を開催

5月中旬、江田島市内にある65サロンの代表者の皆さんと、町単位でサロンの推進会議をしました。

サロン推進会議では『地域に根付いたサロン運営』をしていくために、それぞれのサロンがどのような方法で開催しているかを報告しました。

『誰もが気軽に立ち寄れるサロン』を理想に掲げ、実践しているサロンもありますが、いくつかのサロンでは新しい参加者を増やすことが難しく、後継者不足に頭を悩まされているようです。

サロンは趣味・同好会の集まりではありません。ほっと一息ついたり、いきがい（明日への活力）を見出したりと、地域住民全員の「憩いの場」・「交流の場」です。これからも「サロン」を通じて、地域の皆さんが活き活きと暮らしていけるよう、ふれあいサロン活動を応援していこうと思います。

「ふれあい・いきいきサロン活動」に興味・関心のある方はご遠慮なくお電話ください。

【電話番号】40-2210（担当：おじろ）



ネットが"つなぐ"あなたのえが"あ

しおかぜ"さん"活動記



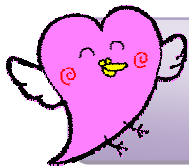
エアコンの掃除をお手伝い♪

「ボランティアさんにエアコンの掃除は手伝ってもらえますか。」と応援センターに電話がきました。早速訪問したところ、夫婦二人暮らしで足腰が悪く、高齢なので高いところの掃除が大変とのこと。「手伝ってくれる人がいれば助かるんじゃが・・・。」との依頼に、しおかぜネットでお手伝いすることに決めました！

しおかぜさんと依頼者さんたちが協力して、フィルターの水洗いやエアコン本体の拭き掃除をしました。エアコンもきれいになり、依頼者さんも喜ばれていました。



「ずっと気になっとったんよ」と依頼者さん
これで今年の夏は大丈夫ですね♪



社会福祉法人 江田島市社会福祉協議会 江田島市障害者生活支援センターからのお知らせです！

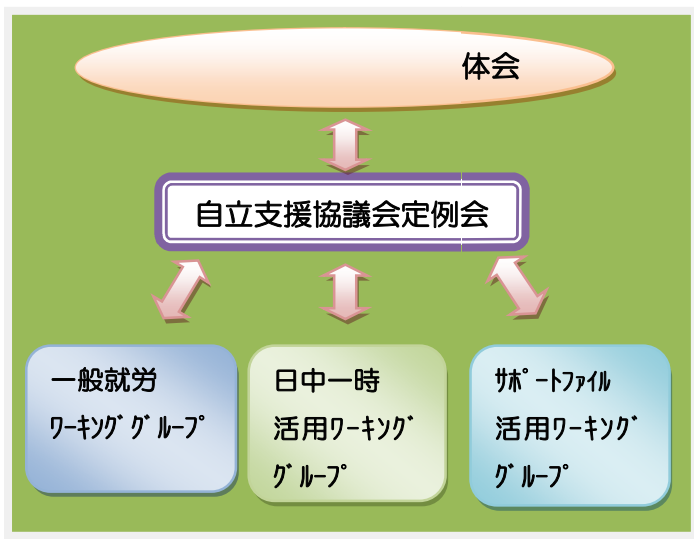


ました



Q1.地域自立支援協議会とは??

障害のある人の暮らしをいろいろな立場の人が一緒に考える会議の事です。



江田島市では「一人ひとりが自分らしく輝き共に生きるまち・江田島」を目指し、地域自立支援協議会を行っています。

今年度は、より当事者の方の思いを反映し協議会を活性化するため、テーマ別の部会に再編成されました。

上半期のテーマは次のとおりです。

- 1.一般就労ワーキンググループ
- 2.日中一時活用ワーキンググループ
- 3.サポートファイル活用ワーキンググループ

Q2.地域自立支援協議会全体会とは??

前年度の定例会活動、各支援グループ活動、相談支援事業者の活動実績等の報告を行います。構成メンバーは相談支援事業所、福祉サービス事業所、障害者団体、家族会、福祉、教育、医療、就労、民生児童委員、人権擁護委員、自治会、身体障害者相談員、知的障害者相談員などです。

Q3.いつ行っているの??

全体会は年に1回の開催です。定例会は奇数月の第3木曜日を開催日としています。また、ワーキンググループについては、各グループの中で話し合い、定期的に協議を行っています。今後も地域自立支援協議会での協議内容や取り組み等の活動状況を掲載していきます！



7月の障害者生活支援センター予定表

日時	行事	開催場所
16日(土) 10時~16時	ぴあサポートサロン	ゆうゆう(自立支援センターあおぞら)
23日(土) 10時~13時	ピアトーク!	大柿老人福祉センター

※参加を希望される方や、お問い合わせは下記までご連絡下さい。

江田島市障害者生活支援センター

〒737-2295 江田島市大柿町大原505 (江田島市役所大柿分庁舎2階)

電話 57-2215 ファックス 40-3573

E-mail: etajimasien@iris.ocn.ne.jp



「障害があっても生き活きと暮らすために」



障害の有無に関わらず、誰もが地域内で明るく暮らすためには、お互いを理解し、支えあう関係づくりが重要になってきます。このオープンセミナーでは「障害がありながら地域で生活すること」の現状と課題を参加者の皆さんで共有し、日常からの繋がりづくりを含めた、これからの支えあいのあり方について考えていきます。

日時平成23年7月25日（月）
14：00～16：00**会場**

大柿老人福祉センター 2階

内容

基調講演

「障害があっても生き活きと暮らすために」

講師：原田 葉子 氏

（医療法人 比治山病院 地域生活支援センターふれあい 施設長）

事例発表（インタビュー形式）

「障害がありながら暮らすということ」



※参加を希望される方は、7月19日（火）までに、下記へお電話、又はFAXでお申し込みください。

江田島市社会福祉協議会 地域福祉課
江田島市障害者生活支援センター

（TEL）40-2210 （FAX）40-2502
（TEL）57-2215 （FAX）40-3573

江田島市社会福祉協議会会費にご協力をお願いします

社会福祉協議会は、住民が主体となり、関係機関・団体と協力しながら「だれもが住みよい福祉のまちづくり」を推進する民間の福祉団体です。

公的な施策だけでは対応しきれない地域福祉活動に取り組むため、市民の皆様や団体・企業などの会費によるご協力をお願いしております。



Q 会費ってどんなことに使われるの？

A 社協会費は全額地域福祉活動・ボランティア活動の財源として活用させていただいております。

Q 会費の種類と金額は？

A 一般会費 年間 1 世帯 200 円以上
賛助会費 年間 1 口 1,000 円（何口でも結構です）

Q 会費の納め方は？

A 年間を通して社協事務局で受付けております。
なお、自治会によっては「赤い羽根共同募金」と合わせて社協会費の集金をお願いしております。

みんなでつくる
福祉のまち

7月心配ごと相談所ご案内

＜開設時間 午後1時～3時30分＞



相談員の皆さんが、日常生活の悩みごとや心配ごとの相談に応じて解決に努めます。
問題によっては関係機関の紹介もします。

相談所は市内のどこでもご自由にご利用できます。

7(木)

江田島市
農村環境改善センター

14(木)

大柿公民館

21(木)

三高会館

28(木)

江田島公民館

江田島市社会福祉協議会

えがお えたじま 応援センター

〒737-2302

広島県江田島市能美町鹿川2060番地（能美福祉センター内）

電話（0823）40-2210 fax（0823）40-2502

